

IzuMerida

いずめりだ

2018年11月15日

Vol. 1

この号の内容

- エネルギー基本計画改定による再生可能エネルギーの拡大可能性 **1**
- 臨時国会が始まりました【国会通信】 **2**
- 5区だより【国政】 **2**
- 源泉混混 (げんせんこんこん) **2**
- 編集後記・お知らせ **2**

エネルギー基本計画改定による 再生可能エネルギーの拡大可能性 ～化石エネルギーと原子力の位置づけ～



「霞が関文学」は、ときには、政策の本質を大きく変質させることもあります。例えばエネルギー供給は、できるだけ再生可能エネルギーに移行させたいのだが、エネルギー密度が低く限界がある。そのため、エネルギー基本計画2014(注)では、最大限頑張っても2030年に約20パーセントしか供給ができません。というのがこれまでのエネルギー基本計画の趣旨と受け止められていたと思います。

ところが、これが霞が関文学によると、世界で技術革新が進んで再生可能エネルギーの供給が大幅に増やせるようになったとしても、計画上再エネは2030

年に約20パーセントが「上限」であり、化石エネルギーや原子力で約80パーセントの供給を賄うという趣旨になります。

平成30年7月3日、エネルギー基本計画が改定されました。改定にかかわった者として、あまり報道されなかったのは残念でしたが、このエネルギー基本計画はこれまでのエネルギー政策を大きく変える改定が行われています。



具体的には、以下の記述が盛り込まれました。

「2030年エネルギーミックスは、主として既存技術による最大限の対応を念頭に展開する。再生可能エネルギーと原子力によるゼロエミッション電源比率の達成を目指す。2050年を見据えながら、その水準を超えた更なる拡大と前倒しを追求する。」

すなわち、再エネの供給は上限が外れたということです。これから、努力すれば、未来は前倒しで変わっていくという政策変更が行われたということになったわけです。

現在、世界では、最も競争力のある再生エネルギーは1Kwhあたり、約3円で供給されています。ちなみに、火力や原子力は1Kwhあたり、10円程度のコストが必要になっていますので、今後産業競争力を強化していくためにも、再生可能エネルギーを社会に実装していくことが不可欠です。

加えて、平成30年北海道胆振東部地震では、ブラックアウトが生じ、火力や原子力といった集中型の電源構成には脆弱性が潜んでいることが明らかになりました。再生可能エネルギーは、エネルギー密度が低い為、分散型電源構成に向いています。国土強靱化の観点からも、再エネ導入の加速が必要です。

再生可能エネルギーの弱点は、天候や日照に発電量が大きく影響を受けることですが、これも、近未来をみると、解決策の実現が目の前に来ています。

電気自動車の普及に伴って、使用済みの蓄電池(自動車用には向かないが蓄電量は、新品の7割は維持している。)が急速に増加しています。これをリサイクルして、再生可能エネルギーの供給の安定化に使う取り組みが進んでいます。また、家庭や事業所で駐車している電気自動車を電力供給網に接続して、電力供給を安定化させることも夢物語ではありません。

(2 ページに続く)

泉田裕彦政治経済防災研究会

Izumida Hirohiko Political-
Economics & Crisis Management
Research Society

国会事務所 〒100-8982
東京都千代田区永田町2-1-2
衆議院第二議員会館 914
電話 03-3508-7640 FAX 03-3508-3270
電子メール izumidapers@gmail.com

長岡事務所 〒9400053
新潟県長岡市長町1-3-4
電話 0258-89-8506 FAX 0258-89-8509



Twitter
@IzumidaPERS
をフォローください。
(公開準備中)

どんなに困難にみえても
未来は変えられる

ブログもご覧ください
<http://izumidapers.blogspot.com/>

※順次公開中

技術的には装置の普及が進めば特に大きな問題があるわけではありませ
ん。料金体系の制度設計によって、社会が大きく変わる可能性があります。
この度の「政策変更」を大いに活用していきたいと思います。

(注)エネルギー政策基本法に基づき、政府が策定するもので、「安全性」、
「安定供給」、「経済効率性の向上」、「環境への適合」というエネルギー政
策の基本方針に則り、エネルギー政策の基本的な方向性を示すもの。

臨時国会が始まりました【国会通信】

- 2018年10月24日、第197回国会の臨時会が招集されました。会期は12月10日までの48日間の予定です。
- 泉田裕彦の所属する委員会は、内閣委員会、農林水産委員会、原子力問題調査特別委員会の3つ。次の総選挙までは変更はありません。
- 10月22日は魚沼地域3首長の皆様が道路に関する要望活動に、また10月31日には魚沼地域耕地協議会様が予算確保のための要望活動に上京され、国交省、財務省、農林水産省などに同行させていただきました。
- 今国会(臨時会)では「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律案」「原子力災害の賠償に関する法律の一部を改正する法律案」はじめ多数の法案が審議されます。



▲ 魚沼地域耕地協議会の皆様の要望活動で太田主計局長と。

▲ 加藤勝信総務会長(左から二番目)への要請活動場面。

5区だより

- 大和ワインまつり
- 長岡マラソン/泉田裕彦がスターターを務める
- 山古志、小千谷牛の角突き……今年度最終場所
- 小千谷市長選挙で大塚昇一候補(現市長)を全面支援。2期目再選
- 魚沼地域耕地協議会による大臣・党幹事長陳情
- 大積スマートインターチェンジ建設促進総決起集会開催
- 錦鯉品評会開催

源泉混混

一面トップ記事は、泉田裕彦自身が書いている。今回はエネルギー基本改革について再生可能エネルギーに支店を置き「霞が関文学」の切り口から読み解いている。その内容は非常に興味深い。ネットやマスメディアの記事では触れることのできない内容ではないかと思う。

編集後記

今号は、泉田裕彦政治経済防災研究会の会員向けニュースレターの実質的創刊号として作成しました。ネーミングの“*IzuMerida*”の由来は、ギリシャ語の「新聞」=“*εφημερίδα*”(エフィメリダ)に、「泉田」をくっつけた造語です。つまり「泉田新聞」のような意味合いになりますね。2ページ目の「源泉混混(こんこん)」というコラム名は、泉田の出身校・三条高校の校歌に出てくる孟子の一節から取りました。県民とともに生き県民を守り続けたい。泉田裕彦の、努力と思いの泉が枯れることはありません。

お知らせ

会員拡大にご協力を……用紙以外での入会方法など、ご不明な点はメールで izumidapers@gmail.com までお問合せください。ブログにアクセスしていただきますと、「入会申込フォーム」へ進めます。ぜひご利用ください。